

新春講演会・懇親会 報告

田中 善英

【講演会】

開催日：令和5年1月14日(土曜日)

時間：13時～15時30分

場所：奈良市中部公民館4階(講義室)

演題：「里山整備の為に考えていること」

～ 市民科学と里山 ～

講師：徳地直子先生

京都大学フィールド科学研究センター教授

聴講者：37名

最初に千載会長から、徳地先生は2017年、



緑化運動推進功労者の表彰式での出
会いがきっかけで、会
の活動を暖かく見守
っていただいているとの紹介がありました。

先生から「地球環境問題」の解決に貢献する
為、フィールド科学研究センターを設立し、生態
系間の繋がりを研究する「森里海連環学」をテ
ーマに活動しているというお話があり、講演が
スタートしました。



人間が生態系の都合
の良いところを利用し、
効率の良い自然の使い
方をして環境がどんど
ん悪化した。それで、環

境を元に戻そうとしているが、何処まで戻せば、
どうすればいいのか判らない状態に落ちいつて
いる。このことを前提に里山を考えてみたい。

「里山は何だろう、どのように使われて、今、
どんな状態なのか。利用と植生の変化。森林の
保全、持続的な生態系の利用とは・・・」。日々
の活動の中で疑問に思っている事を正面から捉
えたお話に引き込まれていきました。

里山は人里に近く、人手を多くかけて、生え
ている草木を利用するため、生物相を改変し、

植生の遷移を止めてきた(二次林の形成)。その
結果、日本の山は木を切りすぎてはげ山になっ
たが、昭和40年代の燃料革命により、森林の
利用が減少した結果、生物相も変化している。

里山の4つの危機の一つが自然に対する働き
かけの縮小である。そして、里山の賢明な利用
が必要とされるが「新しい里山とは何か」よく
分らない。「里山を維持する為には人為を加え続
けなければならない。現在の利用スタイルで無理
のない活動とは何か。一緒に考えませんか」と
言う言葉で締めくくられました。

我々が日々の活動の中で思っている事を整
理し、次の方向を示していただきました。そし
て感謝の拍手を送り、講演会が終わりました。

【懇親会】

時間：16時～18時

場所：ホテルリガーレ春日野(1階天平の間)

参加者：29名

講演会が終わり、場所を移動して懇親会を開
催しました。まず、記念撮影をした後、懇親会



の会場に移動し、
千載会長の挨拶
に続いて鈴木顧
問の乾杯の発声
でスタートしま



した。徳地先生も
参加され、食事を
交えて、講演会で
積み残した意見交
換が行われ、また

各テーブルではお話の花が咲きました。そして、
宴もたけなわの頃、鈴木顧問から徳地先生との
出会いについてのスピーチがあり、また、プロ
ジェクターを使った、ならやまの活動風景、ド
ローンで空撮した風景などの映像の紹介があり
ました。カラオケがなかったので少し欲求不満
気味ではありましたが、改めて「ならやま」を
考え、お話をする機会となりました。